

紅葉や黄葉は9月ごろから始まり、11月で終わりに  
なります。ダンコウバイ・ウリカエデ・チョウジザク  
ラ・コナラ・ウワミズザクラ・クヌギ・ヌルデ・ニガ  
キ・ムラサキシキブなどは9月ごろから黄葉し始め、  
やがて紅葉や褐色葉に変化し落葉するもの、冬も葉  
をつけているものなどに分かれます。

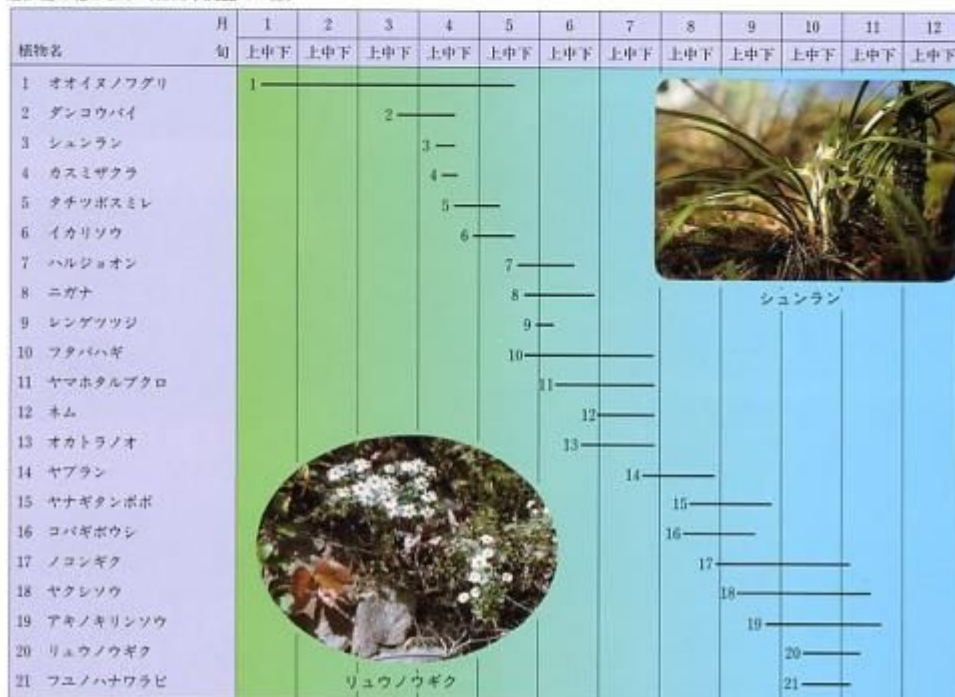
12月から3月までの冬の間は、雪のない時には緑の  
葉を残している植物が目立ちます。シシガシラ・クマ  
ワラビ・トラノオシダ・ヤブソテツ・フユノハナワラ  
ビ・ノキシノブ・オシダなどのシダ類、ササ類、マダ  
ケ・フユツタ・ソヨゴ・アカマツ・スギ・ヒノキ・ハ  
イイヌガヤ・カヤなどの木本類、ニシノホンモンジス  
ゲやヤブランなどが特に目をひきます。雨側の日当た  
りのよい畑や土手などではオオイヌノフグリやハコベ  
・ノボロギクが日中花を開いているのを見ることがで  
きます。また、ハルジョオン・ヒメジョオン・アレチ  
マツヨイグサ・ナズナなどのロゼット葉を見ることが  
できます。



遊歩道



遊歩道の花ごよみ (1988年調査の一部)



①オオイヌノフグリ ゴマノハグサ科

ヨーロッパ原産で、道端や畑でよく見られ、花は早春から咲き始めます。



①オオイヌノフグリ



②ダンコウバイ

③ダンコウバイ クスノキ科

ジシャともいわれる花は早春葉の出る前に咲きます。落葉低木で葉先はふつう3つに分かれ秋黄葉します。



③フキ



④ヒメオドリコソウ

⑤フキ キク科

早春フキノトウ（つぼみとそれをつけている葉）を出し、特有の風味があり食用とします。雄株と雌株があります。

⑥ヒメオドリコソウ シソ科

ヨーロッパ原産。オドリコソウより小型で花は春に咲き、道端や荒地に群生しています。



⑤カスミザクラ

⑥タチツボスミレ



⑦カスミザクラバラ科

ケヤマザクラともいわれ、低山帯の林にふつうに見られる高木で、4～5月初旬に開花します。

⑧タチツボスミレ スミレ科

山野にふつうに見られるスミレで4～5月に開花します。托葉に切れ込みがあり、変化が多いです。



⑦ヤマツツジ



⑧ニガイチゴ

⑨ヤマツツジ ツツジ科

半落葉性の小低木で5月に開花し、山野に最もふつうに見られるツツジであり、生垣にも多いです。

⑩ニガイチゴバラ科

落葉小低木で4～5月に開花します。果実は赤く熟すと食べられ、甘くておいしい。

⑪ニワトコ



⑩イカリソウ



⑫ニワトコ スイカズラ科

低山帯によく見られる低木で葉や樹皮は薬になります。猛毒のドクウツギと間違えやすいです。

⑬イカリソウ メギ科

日当たりのよい雑木林や林縁に分布します。4～5月にいかりに似た紅紫色の花を咲かせます。

①ニガナ キク科

山野にふつうに見られます。茎や葉に苦味のある白い乳液があり、頭花は5-6個の舌状花で5月から咲きます。

②レンゲツツジ ツツジ科

オニツツジともいい、日当たりのよい山地や高原に生えています。毒を含むので牛などの食用にはなりません。

③エゾカワラナデシコ

ナデシコ科  
ナデシコは秋の七草の一つで、日当たりのよい山野の草地や岩場に生えています。

④ミヤマウグイスカグラ

スイカズラ科  
4-5月に淡紅色の花が咲く小低木で、果実はタウエグミといい甘味があります。

⑤ノコンギク キク科

山野に多くよく見られ、花は9-10月ごろに咲きます。多年草で茎や葉の表面はざらざらしています。



⑤ノコンギク

⑥ヤクシソウ



⑦スイカズラ スイカズラ科

ニンドウともいい、花は半常緑のつる性の茎の葉腋に2つつ並んでつきます。花は5-6月ごろ。

⑧ヤマホタルブクロ キキョウ科

ふつうホタルブクロと呼ばれ、花が白色のものもとき見られます。花は6-7月ごろ。

⑨ヤクシソウ キク科

日当たりのよい草地や道端によく見られます。越年性の草本で晩秋まで黄色の花を咲かせています。

⑩オカトラノオ サクラソウ科

山地の草原や道端などによく生えていて、花の穂が尻尾の尾に似ているといわれます。花は7-8月。

⑪ノアザミ キク科

山野の草地や草原でよく見られます。若芽や根は食用になり、6-8月に花が咲きます。



⑦スイカズラ



⑩オカトラノオ



①ニガナ

②レンゲツツジ



③エゾカワラナデシコ



④ミヤマウグイスカグラ



⑧ヤマホタルブクロ

⑪ノアザミ



## 遊歩道のチョウ

自然遊歩道やその周辺の山地には、季節ごとに咲く多くの美しい花が見られます。これらの花々を訪れて蜜を吸ったり、目の前を飛び交う愛らしいチョウの姿を四季折々に楽しむことができます。

### 春のチョウ

まだ木々の芽が堅いころでも、3月になると暖かな日には成虫で冬越ししたキチョウやクジャクチョウ・ルリタテハなどが姿を見せ、春の太陽のもとで思いき



ダイミョウセセリ



ウスバシロチョウ



クロアゲハ



クモガタヒョウモン



ハヤシメドリシジミ



クジャクチョウの幼虫



クロヒカゲ▶



▼スジボソヤマキチョウ



▼コチャバネセセリ

り翅を開いて日光浴をしている姿に出会います。

3月下旬から4月になると、春になって発生したモンシロチョウ・アゲハ・ルリシジミ・ミヤマセセリなども見られるようになります。5月になり日差しも一段と強くなると、氷河期の生き残りといわれているウスバシロチョウをはじめ、クロアゲハ・クモガタヒョウモン・ダイミョウセセリなど多くのチョウを見ることができます。

### 夏のチョウ

初夏の6月になると、一年を通して最も多くのチョウが見られるようになります。主なチョウはオナガアゲハ・ミヤマカラスアゲハ・ハヤシメドリシジミ・ミドリヒョウモン・ゴマダラチョウ・クロヒカゲ・コチャバネセセリなどです。

7月になると、スジボソヤマキチョウ・アカタテハ・クジャクチョウ・オオムラサキ・ウラギンヒョウモンなどの姿が見られるようになります。8月に入ると種類も数もずっと少なくなります。それでも晩春から初夏に見られたチョウの生き残りや、色あせたチョウを含めるとかなり多くのチョウが見られ、夏休みの研究や観察にも役立ちます。

オオムラサキ



秋のチョウ

9月になると、残暑の日もありますが、涼しい秋風が吹くようになります。この時期には年2〜3回発生するチョウ類の新鮮な秋型をはじめ、秋の花に集まってくるチョウを見ることができます。キアゲハ・モンキチョウ・スジグロシロチョウ・ルリシジミ・キタテハ・ヒメアカタテハ・イチモンジセセリ・オオチャバネセセリなどです。

10月になると一段と涼しくなりますが日中は暖かい

日もあり、9月に見られたチョウも何種類か見られます。特に9〜10月にはイチモンジセセリの数が急に多くなり、遊歩道に咲くほとんどの花に蜜を求めて止まっています。

また年によっては暖地性のチャバネセセリやウラナミシジミが見られることもあります。ヒョウモン類の破損したものなどは、晩秋の花で蜜を吸ったりよろよろと付近を飛んでいたかと思うとやがて姿が見られなくなり、チョウ類のシーズンが終わりになります。



キタテハ



モンキチョウの交尾



スジグロシロチョウ



ヒメアカタテハ

冬のチョウ

11〜12月になって霜が降りるようになって寒くなると、チョウ類のほとんどは姿を見ることができなくなります。チョウ類は卵・幼虫・さなぎ・成虫のいずれかの状態で冬越しをしています。卵で冬越しするものはウスバシロチョウやミドリシジミのなかまなどです。幼虫で越冬するものはモンキチョウ・ベニシジミ・ミ

ドリヒョウモン・コムラサキ・オオムラサキ・コマダラチョウなど多くの種類がいます。さなぎで冬越しするのはモンシロチョウ・アゲハの仲間、トラフシジミなどです。成虫のまま冬を越すチョウは、テングチョウ・ルリタテハ・クジャクチョウ・スジボソヤマキチョウなどです。どんなところで冬越しをしているか観察するのも楽しいものです。



オオムラサキ(上)と  
コマダラチョウ(下)  
の越冬幼虫



コムラサキの越冬幼虫



アイノミドリシジミの越冬卵



クジャクチョウ

## 遊歩道の鳥

日岐城跡の古い歴史をたどる遊歩道は、植林されたアカマツ・スギ・カラマツやクヌギ・コナラの雑木林の中にあり、野鳥をウォッチングしながら親しむにはよい観察路となっています。特に4月には、この遊歩

道でシジュウカラ・エナガ・メジロ・ノジコなど27種の野鳥を観察することができます。

また、雪を踏みしめながら歩く1月には、カシラダカ・ツグミ・ジョウビタキなど15種の野鳥を観察することもできます。



シジュウカラ



遊歩道の鳥



ムクドリ



ホホジロ



キセキレイ



メジロ

遊歩道で見られる鳥

種名	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1 ハシボソガラス		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2 ハシブトガラス		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
3 カケス		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
4 ムクドリ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
5 スズメ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
6 カウラヒワ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
7 ホホジロ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
8 カシラダカ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
9 ノジコ					●	●							
10 メジロ					●	●							
11 シジュウカラ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
12 ヤマガラ					●								
13 エナガ		●				●	●					●	●
14 ヒガラ		●											●
15 キセキレイ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
16 セグロセキレイ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
17 モズ					●	●	●	●	●	●	●	●	●
18 ヒヨドリ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
19 キビタキ					●								
20 コサメビタキ					●								
21 ウグイス					●	●	●						
22 センダイムシクイ					●	●	●						
23 ヤブサメ					●	●	●						
24 アカハラ					●	●	●	●					
25 ツグミ		●	●	●								●	●
26 イフツバメ					●	●	●	●					
27 ツバメ					●	●	●	●	●				
28 アマツバメ					●	●	●	●					
29 コタカ					●	●	●	●					
30 コゲラ					●	●	●	●	●				
31 アカゲラ					●	●	●	●	●				
32 ホトトギス					●	●	●	●	●				
33 トビ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
34 オオタカ						●	●	●	●				
35 キジバト		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
36 ジョウビタキ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

## 生坂村のキノコ

生坂村内のほぼ中央部を南北に曲流する犀川の東側には、大城・京ヶ倉の険しい生坂山地の山並みが続いています。ここにはアカマツ・キタゴヨウを主とするマツ林やマツの混生する雑木林が分布し、その林床はマツタケ・キシメジ・アマタケ・マツタケモドキなど良質のキノコの産地となっています。

犀川の西側と生坂山地の南側に続く丘陵地帯には、コナラ・クヌギ・クリ・ソヨゴ・サクラ類、カエデ類などを主とする雑木林が分布し、カラマツ・スギ・ヒノキなどの人工林も見られます。これらの林床ではサクラシメジ・クリタケ・ムラサキシメジ・ショウゲンジ・シイタケなど食用に適した多くのキノコが採れます。

初夏から晩秋にかけて適度なおしめり（雨量）と日照りがある年には地下の菌糸の発育が良く、晩夏から晩秋には良質のキノコが多量に出て、村民を喜ばせてくれます。キノコ採りは、春の山菜採りとともに家族

や近隣の人々の楽しい話題となったり、自然への親しみを深めたりします。また毎年展示会も開かれ観光にも役立っています。

キノコの料理としては、煮物・塩焼き・キノコ飯・なべ物・いため煮・酢の物・お吸い物・汁の実・油いため・蒸し焼き・おひたし・大根おろしあえ・キノコサラダなどがあり、近年は新しい調味料などを使った現代的な料理法も工夫されています。

キノコの保存法には、乾燥法・塩づけ法・粕づけ法などがありますが、一般には塩づけ法が多く利用されています。塩づけ法は長期間の保存にはよいものの、食べる時には水で塩出しをしてもどすため味はあまり期待できませんが、キノコの出ない期間に他の物と組み合わせるなど料理を引き立たせてくれます。最近では生のままアルミホイルなどで密封して冷蔵庫で保存することが家庭でもできるようになり、おいしいキノコ料理が考え出されています。



マツタケ アカマツ林内に出る食用キノコの王者で、独特の香りがあり、その風味が珍重されています。

### ①ハツタケ

アカマツ林やその林縁地に出ます。カサの中央部がへこみじょうご形で、同心紋があり、また傷つけると青緑色に変わります。

### ②サクラシメジ

アカキノコ、アカンボウなどとも呼ばれ、コナラ・クヌギなどの広葉樹林内に9～10月初旬に群生します。



①ハツタケ



②サクラシメジ



③ヌメリイグチ



④アミタケ



⑤マツタケモドキ

③ヌメリイグチ

リコボウ・ジコボウなどと呼ばれアカマツや雑木林内に普通に見られ親しみのあるキノコです。

④アミタケ

アカマツ林に多く出ますが雑木林にも見られ、広く食用とされています。8月下旬～10月ごろまで採れます。

⑤マツタケモドキ

アカマツ林内にマツタケより少し遅れて出ます。オシボウズともいい、茎の根元が細くがっています。

⑥クサウラベニタケ

ウラベニホテイシメジと同じ所に出て、中毒を起こしやすく、茎は中空になっています。

⑦クリタケ

コナラ・クリなどの落葉性広葉樹林の根株や倒木に群生します。発生期間も長く多量に収穫できることが多いです。

⑧ショウゲンジ

コムソウ、コムソウタケなどとも呼ばれ、主にアカマツ林内に群生します。よく親しまれているキノコです。



⑥クサウラベニタケ



⑦クリタケ



⑧ショウゲンジ

⑨コガネタケ

人家周辺や深山の道端などに大発生することがあります。黄白色で肉質もしっかりしており、味も歯切れがよいです。

⑩キシメジ

キシメジともいい、主にアカマツ林に早い時期に出ます。信州の代表的なキノコとされていて、淡黄色で美しいキノコです。

⑪ムラサキシメジ

広葉樹林内に遅くに群生することが多く、淡紫色からしだいに白っぽくなります。全国的に食用とされています。

⑫ウラベニホテイシメジ

イッポンカンコウとも呼ばれ、クサウラベニタケ（有毒）と間違えやすいが、大型で茎は中実、食用とされます。



⑨コガネタケ



⑩キシメジ

⑪キシメジ



⑫ウラベニホテイシメジ





## 天然記念物・大樹・社寺叢

### 1. 天然記念物の乳房イチョウ

小立野乳房観音堂境内にあり昭和7年に県の天然記念物に指定され、昭和40年に新法により再指定されました。周囲約850cm、樹高約35m、枝張りほぼ主として南北に約27mの大木で、樹齢約800年といわれています。

乳房（柱瘤）が大小約25本たれていて、大きなものは長さ約2.2m、根元の太さは周囲約1mもあります。4月中旬ごろから発芽し、6月には全葉となります。10月下旬ごろから黄葉が始まり、11月には全樹が黄葉となり大変見事なものです。11月中旬ごろに強い霜がくると一斉に落葉し、地上は黄金を散らしたようになります。

今から180年ほど前の文化年間に乳房堂が焼けた時、



乳房イチョウの柱瘤

このイチョウから御光がさしてとても気味が悪く村人は近づけなかったそうです。後でこれは焼けた観音様がイチョウにお移りになったからだと言いはれました。

その後、産後母乳が出なかつたり母乳が不足する母親が観音様に祈願しイチョウの下枝を折って持ち帰り一握りの長さにして煎じ、煎じ汁を何回も飲むと母乳がよくでるようになりました。願主はお礼に「何年の女」と書いた絵馬や木綿で作った乳房を奉納したり、樹の乳房を紙で包み水引で結びました。

昭和10年ごろまでは長野県内ばかりでなく他府県からもお参りに来る人が多く、乳房イチョウとして有名になりました。



乳房イチョウの黄葉

### 2. 社寺叢・大樹

村内の社寺叢には幾本かの大樹が含まれており、遠くからでもよく見えます。昔からその地区の人々や多くの村民から親しまれ大切にされてきたものばかりです。保存林・保存木として保護し、後世に残していきたいものです。

#### ① 会諏訪社神明社社叢 宇留賀

スギを主とする社叢で大樹としては周囲約3.10m・樹高約18m、周囲約3.05m・樹高約18mの2本が目立ちます。

#### ② 本村神明社諏訪社社叢 宇留賀

スギを主とする社叢内のモミ・ケヤキの大樹が目立ちます。主な大樹はモミ周囲約3.40m・樹高約25m、ケヤキ周囲約2.80m・樹高約15mなどです。

#### ③ 大日向神社社叢 大日向

スギを主とする社叢内にモミの大樹も見られます。大樹の主なものスギ周囲約3.10m・樹高約25m、周囲約3.05m・樹高約25mの2本と、モミ周囲約3.00m・樹高約30mなどです。

#### ④ 宮ノ原神明宮の社叢 昭津

スギ・モミの大樹を含む社叢で主なものスギ周囲

約3.70m、モミ周囲約3.10m、樹高はそれぞれ約25mです。

⑤ 草尾神明宮三鳥社の社叢 草尾

スギを主とする社叢でモミ・サクラ・カヤノキ・イヌザクラがあります。大樹としてはスギ周囲約3.70m、樹高約25mが目立ちます。

⑥ 万平の馬場跡の並木林 上生坂

元禄4年(1691)に防風林、風致林として植えられ保存されてきた並木林で、アカマツ・コナラの大樹が目立ちます。主な大樹はアカマツ周囲約3.10m～約2.30mなど10本、コナラ周囲約2.70m～約1.60mなど6本、モミ周囲約2.20mが目立ちます。

⑦ 上生坂日置神社の社叢 上生坂

スギを主とする社叢でケヤキ・モミ・サクラなどの大樹が見られます。ケヤキ周囲約4.60m～約3.10mなど3本、スギ周囲約4.70m～約2.50mなど13本、モミ

周囲約3.50mなど3本などです。

⑧ 大倉諏訪社社叢 日岐

ケヤキを主とする社叢で周辺の民家の間にも十数本の目立つ太さのケヤキがあり、大きなケヤキ林となっています。主な大樹は周囲約4.10m・高さ約20m、周囲約2.70mなどの3本が目立ちます。

⑨ 日置神社社叢 日岐

ケヤキとモミの大樹がありケヤキ周囲約3.50m～約2.90mなど5本、モミ周囲約2.55mなどです。

⑩ 五社宮の社叢 下生野

スギを主とする社叢内にケヤキ・モミ・ヒノキ・コナラなどの大樹が目立ちます。主な大樹はスギ周囲約3.50m～約2.70mで目立つ太さのもの16本、ケヤキ周囲約3.80m～約2.50mなど10本、モミ周囲約3.10mなど2本が目立ちます。



会津諏訪社神明宮諏訪社スギ



本村神明  
諏訪社スギ



大日向神社 スギ



宮ノ原神明宮社叢



草尾神明宮社叢



万平の並木



大倉諏訪社のケヤキ

日置神社スギ

日置神社社叢

◀村社五社宮の社叢

